

火尊社ひのみことのやしろ

〔油小路通綾小路の南、風早町にあり。祭神は彦火火出見尊ひこほでみのなり。火災除滅を祈るに靈験あり。例祭は九月廿八日、又側に天満宮あり。当町は祇園会天神山町にて、其神像をこゝに鎮坐しけるなり。又此所の東、綾小路あしかり山町北側路次の奥に、破風造の家あり、甚古代の体なり。世俗武蔵坊辨慶第むさしぼうべんけいといふ。由縁詳ならず〕

人麿御霊社ひとまろごりやうのやしろ

〔醒井通高辻の南、東側人家の奥にあり、初は只御霊祠と呼ぶ。いにしへ俊成卿の宅辺に、和歌三神を勧請し給ふ住吉玉津島すみよしたまつは現存して前編に見へたり。人丸祠これなし。然るに近きとし明和六年の春、正二位上冷泉かみのれいぜい前大納言のちのち為村卿此一社の翳れ給ひしを惜給ひ、此ほとりの街衢所ぐ祠を尋させ給ふに、竟に此祠其凶に当れり、是遠祖俊成卿しゅんせい勧請の一社なりとて尊敬し給ふ。町中も初てこれを知つて社を修造し、祭事を改め三月十八日とす。為村卿よりも和歌を賜ふ、今町内に蔵む〕

一道院だういん

〔堀川通五条坊門にあり、法華宗本圀寺に属す。開基は吉祥院日喜上人、中興は一道院日法上人、本蔵寺と号す〕

日蓮上人像にちれん

〔和泉阿闍梨日法上人の開眼なり。靈元法皇の勅願所として、経王祈祷所の額を賜ふ〕

蛭子社えびすのやしろ

〔四条通油小路の西、三軒町にあり。祠前の井中より出現す、故に水閘蛭子と呼ぶ〕

本行寺ほんぎやうじ

〔醒井通綾小路の南にあり、法華宗妙覚寺に属す。開基日雄上人〕

日蓮上人像にちれん

〔自作、一尺五寸許。古へは房州誕生寺にあり、事は法華霊場記に見へたり。靈驗新にしてつねに詣人絶

ず〕

相逢社あひあふの

〔姉小路通新町の西、高松神明の南人家の裏にあり。日吉山王の末社にして、実は相王社なり。児童出遊ん

で其帰る所を知らず迷子となりしを、此祠に祈願して草履を献じ、此地より尋ね初るに速に其行衛を知るといふ。是相王と音声同じければなり。又俗に迷子祠とも呼ぶ〕

迷子呼ぶ声や血に啼ほとゝぎす

児薬師ちこやくし

〔三条通油小路西にあり音徳寺といふ。久代龜山帝御幼稚にましますとき、疖の御悩あり、此本尊に祈願し

給ふ所、忽玉体安泰まし〜けり、故に此名を呼ぶ〕

又旅社またたび

〔三条通あたらし町の角にあり、祭神牛頭ごづ天皇。毎年六月十四日祇園ぎ會に此社前に壇を築き、幣三本を立て斎場とす、然ふして三基の神輿此所に昇居、それより列を全して三条東へわたるなり。御旅所両所あるゆへ又旅の名あり〕

三宝寺さんぼうじ

〔三条通大宮の西にあり、浄土宗百万遍に属す。開基は笈公上人きくこう、文明十六年の建立なり〕

本尊三尊仏 〔阿弥陀は慈覺じかく大師の作、立像三尺余。脇土觀音、勢土は安阿弥の作なり〕

十一面觀音 〔聖德太子しやうとくたいしの御作、立像五尺〕 勢至菩薩 〔黄金仏、立像三寸許〕

円光大師像えんくわう 〔自作、坐像三寸許〕 地藏尊 〔恵心ゑしんの作、坐像三尺許〕

正運寺しやううんじ

〔四条坊門大宮の西にあり、浄土宗黒谷に属す。寛永十年の草創なり、本尊阿弥陀仏、開基は源誉上人〕

觀音堂 〔寺内にあり、本尊十一面觀音は和州長谷寺はせでらの本尊と同木同作なりとぞ。洛陽巡の第廿六番なり〕

隼社はやぶさのやしら

〔四条坊門千本通の東圃の中にあり。古へは社頭巍々たり、今に祠となる。延喜式云、左京四条坐神一座

〔月次新嘗〕 隼神社。○三代実録云、貞觀二年六月十五日甲午、授後院無位隼神はやぶさ從五位下。○日本紀略云、天慶三年九

月四日、奉^レ贈^ニ左京正四位上^隼神^從三位^一。○世人隼をハヤクサと謬り通称し、又謬り略して瘡神ともいふ。瘡毒平癒を祈願の者、土にて団子の形をこしらへ土器に盛て神供とす。かやうなる謬伝所^レにあり。是しかしながら一心再拜の謹啓に頭を傾けぬれば、などか利生なからんや、只世俗に循ふて信仰すべし」

水葱宮^{なぎのみや}

〔四条の西、千本の東南の方圃の中にあり。老杉一株の下に小祠を建る、土人牛頭^{こづ}天王地主神といふ。大内裏の御時、此所は水葱^{なぎ}町にして一叢の森あり、或京程の図に、水葱^{なぎ}町は朱雀通の東、四条の南、坊城^{ぼうじやう}の西、綾小路^{あやの}の北と云云〕

新六帖

をしなべてしげる草葉にわかざりし沼のこなぎも花咲にけり

衣笠内大臣